

令和6年産 紀南の梅産地情報

2024/07/22

「生産概況」

1. 本年の南高の開花期間は31日間と平年より9日長くなり、昨年12月から本年2月にかけて気温が高かったことが影響し、満開期は1月30日と平年より16日早い極端な早咲きとなった。授粉樹との開花はほぼ揃ったが、開花期間中の気象変動が大きく早期開花の影響で不完全花が発生し、収穫前の定点調査では着果量は前年・平年よりかなり少なくなった。

また、3月20日には紀南の広い範囲で雹が降り等級を著しく低下させる被害と一部地域では凍霜害が発生した。

小梅は5月13日、古城は5月20日、主力の南高は5月27日から販売が始まった。生育期間中は平年を上回る降水量があり果実肥大は概ね順調に推移した。病害虫についてはカメムシの発生が多く、等級を低下させる被害があった。

2. 生産量は、各品種総じて前年・平年よりかなり少ない見込みとなっている。

7/18日時点（生産見込量：トン）

品 種	6年産	5年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	214	705	747	30%	29%
古 城	131	374	477	35%	27%
南 高	11,055	20,589	21,235	54%	52%
在来系	140	386	435	36%	32%

「安全・安心対策」

J A 紀南の安全・安心対策は、全出荷者の生産履歴報告書の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、G A P（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

「産地の課題と方向」

予想を上回る激しい気象変動の中で、梅生産においては生産量を安定させることが産地としての最重要課題となる。

生産安定対策として、短期的には授粉対策、ミツバチの活動を促す防風対策、灌水・施肥・土づくりの基本管理の徹底、中長期的には改植、授粉樹の増植、土づくりの定着、南高の優良系統の発掘等を行い、安定生産に向け対策を講じていく。